


第64次南極地域観測隊つくば市表敬訪問  
瀧隊員（左から2番目）と五十嵐市長（左から3番目）

## CONTENTS

1. G空間EXPO2022「Geoアクティビティコンテスト」等を開催 ..... 2
2. UJNR地震調査専門部会第13回日米合同部会への参加報告 ..... 3
3. 第73回日本学校農業クラブ全国大会（平板測量競技会）で国土地理院長賞を授与 ..... 4
4. 第64次南極地域観測隊出発 ..... 5
5. 「自然災害伝承碑 」のウェブ地図「地理院地図」公開数 ..... 6
6. 10月の報道発表・12月の主な行事予定 ..... 6

国土地理院は、新型コロナウイルス感染拡大防止をはかるため、制限を設けたイベント等の開催、テレワークの活用等による人との接触を低減する取り組みを実施しています。

## G空間EXPO2022「Geoアクティビティコンテスト」等を開催

12月6日（火）・7日（水）に「G空間EXPO2022～G空間で創るデジタル社会～」が東京都立産業貿易センター浜松町館（東京都港区）、及びオンラインで開催されます。その中で、国土地理院は「Geoアクティビティコンテスト」と「地理院地図パートナーネットワーク会議」を主催します。

### ● G空間 EXPO2022

地理空間情報の最先端技術やサービスを集結し、広く一般の方々に対し、未来をつくる日本の技術やサービスを紹介するとともに、新たな技術やサービスの創出、民間事業者等の提案や創意工夫を掘り起こす場として、産学官の連携により「G空間 EXPO2022」（主催：G空間 EXPO 運営協議会）が開催されます。

会場開催は、昨年と同じく「東京都立産業貿易センター浜松町館」です。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、会場受付においてご連絡先を伺いますので、ご理解ご協力をお願いします。

### ■ 開催概要

名称：G空間 EXPO 2022

～G空間で創るデジタル社会～

会期及び会場：

【会場開催】※入場無料

令和4年12月6日（火）・7日（水）

10：00～17：00

東京都立産業貿易センター浜松町館4階

〔東京都港区海岸1-7-1〕

<https://www.sanbo.metro.tokyo.lg.jp/>

【オンライン開催】

令和4年12月1日（木）～25日（日）

G空間 EXPO 公式サイト

<https://www.g-expo.jp/>

主催：G空間 EXPO 運営協議会

構成：①地理空間情報フォーラム

②Geoアクティビティコンテスト

③講演・シンポジウム

以下、国土地理院主催イベントを紹介します。

### ● Geoアクティビティコンテスト

「Geoアクティビティコンテスト」は、公募により選ばれた方々（以下、出展者）が、G空間情報に関する先進的な取り組み、新たなサービスな

ど（以下、作品）を展示とプレゼンテーションで紹介します。作品については、産学官の有識者からなる審査委員会において審査を行い、優秀作品を表彰します。

会場では2日目の12月7日（水）浜松町館4階展示室内メインステージにおいて、出展者（今年は13組）のプレゼンテーション（口頭発表又は発表動画上映）と表彰式を行います。

作品は、G空間 EXPO2022 公式サイト

[\(http://www.g-expo.jp/\)](http://www.g-expo.jp/)でも公開予定です。

### ● 地理院地図パートナーネットワーク会議

「第14回地理院地図パートナーネットワーク会議」をプログラムのひとつとして開催します。ベクトルタイルに関する最近の動向についての講演及び意見交換を行います。

1日目の12月6日（火）浜松町館4階第2会議室において開催し、会議の様子は、インターネットで全国にライブ配信します。



最新の情報については、G空間 EXPO 公式サイトのほか、Twitter (@g\_exp)でも発信しますので、是非ご覧ください。

多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

（企画部・地理空間情報部）



## UJNR地震調査専門部会第13回日米合同部会への参加報告

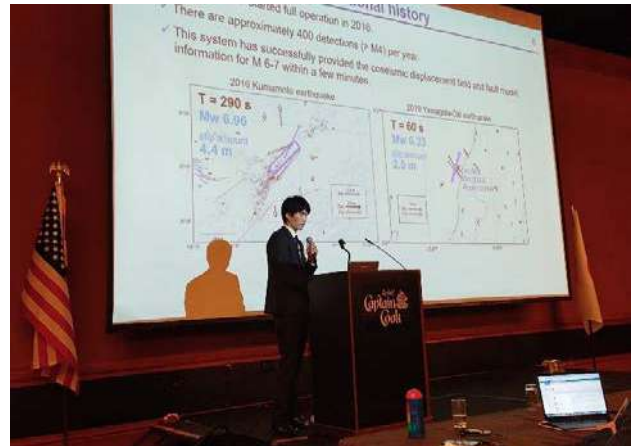
令和4年9月27日から29日に、米国アラスカ州アンカレッジ市において、天然資源の開発利用に関する日米会議（UJNR）地震調査専門部会第13回日米合同部会が開催されました。会合には、日本及び米国の地震研究者46名（日本側13名、米国側33名）が参加し、活発な議論が行われました。国土地理院からは、日本側議長の大木章一<sup>おおき しょういち</sup>参事官はじめ4名が参加しました。

UJNR 地震調査専門部会は、地震調査・観測に関する最新の研究成果や将来の計画に関する情報交換・協議を通じ地震被害の軽減に資することを目的として日米交互に開催されており、日本側事務局は国土地理院、米国側事務局は米国地質調査所（USGS）が担当しています。2018年までは隔年で開催しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により4年ぶりの開催となりました。

27日と29日に行われた会議では、日米の地震政策・プロジェクト、スロースリップ、火山と関連した地震活動・津波、地震・津波早期警戒情報、地震学における機械学習の活用など、幅広い話題が取り上げられました。今回の会議では、前回に引き続き、日米双方から地震・津波早期警戒情報の発信の取り組みに関する報告が多数ありました。また、機械学習を用いて地震カタログ<sup>ちゆうみつ</sup>を稠密化するなど、地震学において機械学習の活用が着実に進んでいることをうかがわせる発表が多くあり印象的でした。会議の最後に、地震による被害を軽減するために、今後日米で協力して実施すべき研究について取りまとめた決議を採択しました。

会議中日の28日には、現地視察として1964年アラスカ地震による巨大地すべり跡の公園や、地震時に沈降した沿岸湿地の堆積物露頭を視察し、当時の被害状況やその後の調査・観測結果の説明などが行われました。

なお、次期の会合は、隔年に戻して令和6年秋に日本で開催される予定です。



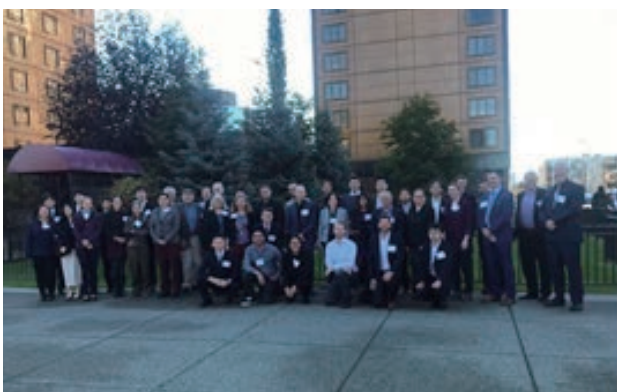
講演



1964年アラスカ地震による地すべりの跡



1964年アラスカ地震の際に沈降した沿岸湿地の堆積物露頭



UJNR 地震調査専門部会第13回日米合同部会参加者

(地理地殻活動研究センター)

## 第73回日本学校農業クラブ全国大会(平板測量競技会)で国土地理院長賞を授与

第73回日本学校農業クラブ全国大会令和4年度北陸大会（主催：日本学校農業クラブ連盟、全国農業高等学校長協会ほか 後援：文部科学省、農林水産省、国土地理院、石川県ほか）が、石川県金沢市、富山県富山市、高岡市、<sup>と</sup>砺波市及び福井県福井市を会場に、10月26日、27日に開催されました。



平板測量競技会最優秀校（山口県立山口農業高等学校）に国土地理院長賞を授与

全国大会は、「農業高校の甲子園」とも呼ばれており、農業関係高校で学ぶ生徒達が日頃の学習成果の発表や実習等で学んだ成果を発揮し、生徒達相互の交流を目的として昭和25年から開催されている歴史のある大会です（第71回静岡大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）。

北陸地方での全国大会は、第50回平成11年度富山大会以来となり、北陸3県（石川県、富山県、福井県）による合同開催は第24回昭和48年度北陸大会以来約50年ぶりの開催となりました。本大会では、『北陸に集いし若き精鋭 今こそ実れ豊作の時』、『稲穂揺れる豊かな大地 我ら農クの魂輝く』の二つの大会スローガンを掲げ、全国から約1,500名の生徒が北陸3県に集い、26日に「プロジェクト発表会」、「意見発表会」、「平板測量競技会」及び「農業鑑定競技会」の4部門で競い合いました。このうち平板測量競技会は、砺波（<sup>と</sup>なみ）総合運動公園多目的競技場（富山県砺波市）で日本農業学校クラブの各都道府県連盟が選出した49チームが、平板による境界線測量及び三斜法・三辺法による面積測定を行い、平板測量の技術・正確さ・スピードなどが審査される競技で、優秀な成績を修めた学校には国土地理院長賞が授与されるものです。

27日には、石川県立音楽堂（石川県金沢市）で大会式典が開催され、4部門の最優秀者及び最優秀校の表彰式が執り行われました。また、大会式典の様子は、インターネットによるライブ配信も行われました。

平板測量競技会では、最も優秀な成績を修めた山口県立山口農業高等学校に高村裕平<sup>たかむらゆうへい</sup>国土地理院長（代理：伊藤純一<sup>いとうじゅんいち</sup>北陸地方測量部長）から国土地理院長賞の賞状及び記念の楯を授与しました。



平板測量競技大会の様子（撮影：水野浩志）

なお、来年度は、第74回日本学校農業クラブ全国大会令和5年度熊本大会として、熊本市、菊池市、山鹿市、玉名市を会場に開催される予定です。



平板測量競技大会の様子（撮影：水野浩志）

（北陸地方測量部）



## 第64次南極地域観測隊出発

第64次南極地域観測隊は、11月11日に<sup>あおみ</sup>青海ふ頭から南極観測船「しらせ」が隊員を乗せて南極の昭和基地に向けて出発しました。また、出発に先だち、10月17日につくば市所在の機関から派遣される隊員がつくば市長を表敬訪問しました。

### ■ 国土地理院からは瀧隊員が参加

第64次南極地域観測隊は、越冬隊28名、夏隊43名、夏隊同行者9名で編成され、夏隊員として、基本図情報部<sup>たきしげゆき</sup>瀧繁幸画像調査課係長が参加しています。

瀧隊員は、南極地域観測事業における測地定常観測の地形測量として、無人航空機(UAV)による空中写真撮影を実施するほか、写真の位置情報を高精度化するためのGNSS※測量と対空標識設置を実施する予定です。

また、測地測量として、基準点設置、相対重力測量を行うほか、国際GNSS事業(IGS)の重要な観測点である昭和基地のGNSS連続観測局(SYOG)や氷河の後退に伴う地盤変動を検出するために設置したGNSS固定観測点の保守等を実施する予定です。

なお、瀧隊員は令和5年3月22日(水)に帰国する予定です。



第64次南極地域観測隊として出発した瀧隊員(左から4番目)

※ GNSS (Global Navigation Satellite System) : 人工衛星からの信号を用いて位置を決定する衛星測位システムの総称

### ■ つくば市長を表敬訪問



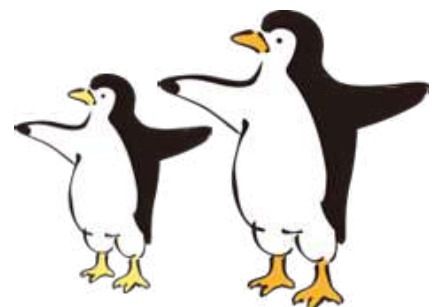
瀧隊員(左から2番目)と五十嵐市長(左から3番目)

出発を前にした10月17日、瀧隊員は市内の機関に勤務する隊員や関係者とともに、つくば市の<sup>いがらしたつお</sup>五十嵐立青市長を表敬訪問しました。

市長との歓談では、現地での業務内容や抱負を述べ、瀧隊員からは、「以前からの夢がようやく叶った。南極の詳細な地図はまだできておらず、その作成のために力を尽くしたい」と意気込みが述べられました。

市長からは、「近年は気候的な危機が現実に起きており、南極での調査活動の意味はこれまで以上に大きくなっている。過酷な環境での作業になるが、体調に気をつけながら、ご活躍を祈っています」と激励の言葉をいただきました。

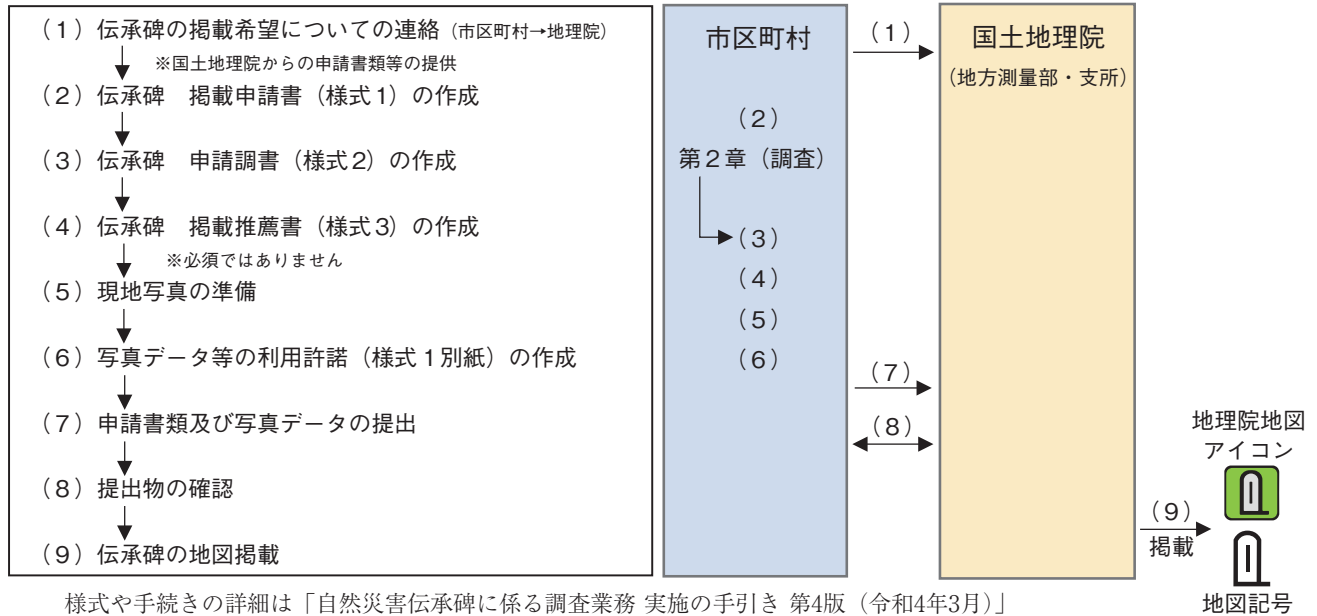
(基本図情報部・総務部)



47	都道府県	494	市区町村	1708	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。  
 [市区町村の担当者の皆様へ] 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第4版 (令和4年3月)」  
<https://www.gsi.go.jp/common/000235746.pdf> をご覧ください。

10月の報道発表

11日	令和4年9月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
12日	「地理空間情報の活用促進のための協力協定」を締結 ～浜中町の行政サービス向上や迅速かつ効果的な防災・減災の推進を図ります～	北海道地方測量部
18日	一部の電子基準点の測量成果の公開を停止しました	測地観測センター

報道の内容は、国土地理院ホームページ > 2022年 報道発表資料一覧  
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2022.html> をご覧ください。

12月の主な行事予定

10/18 ~ 12/18	企画展「地図に残る河川改修」
12/6・7	G空間 EXPO2022 ※オンライン併用 オンライン開催期間 12/1 ~ 25

行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止又は延期となる場合があります。

国土地理院広報は、  
 国土地理院ホームページ > 広報誌 > 国土地理院広報  
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/> に掲載しています。

発行 **国土交通省国土地理院**  
 Geospatial Information Authority of Japan  
 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番  
 TEL 029-864-6255  
 FAX 029-864-6441  
 連絡先：総務部広報広聴室  
 国土地理院ホームページ  
<https://www.gsi.go.jp/>